

運 動 器

科目責任者 種 市 洋
学年・学期 3 学年・3 学期

I. 前 文

運動器は筋骨格系と神経系からなり、体の各部分の運動をコントロールする臓器です。運動器はヒトが自立した人間らしい生活を営む重要なインフラです。超高齢化社会では運動器を長期間、健常に保つことが社会を成り立たせる基本です。運動器を扱う整形外科の疾患は変性性疾患、外傷（労働災害、交通事故などによる）、スポーツ外傷・障害、関節リウマチ、骨軟部腫瘍、先天性疾患など乳幼児から超高齢者まで、男女の別を問わず広い範囲におよびます。

当科目は整形外科的疾患の病態、診断および治療とリハビリテーションについて講義します。運動器の局所解剖や機能を理解するために、第2学年までに学修した骨筋学や生体力学（物理学）を再び系統講義に組み込んだラセン型教育を実施します。また、知識の定着を促すため各講義の冒頭部分には学生諸君が与えられたテーマに対し10分間のプレゼンテーションを行うアクティブラーニング形式としますので、あらかじめしっかり準備をして対応して下さい。

II. 担当教員

整形外科学：種 市 洋，長田 伝重（日光医療センター），神 野 哲 也（埼玉医療センター），
片 桐 浩 久（静岡県立静岡がんセンター），栃 木 祐 樹（埼玉医療センター），
稲 見 聡，森 平 泰，竹 内 大 作，富 沢 一 生，上 田 明 希，
山 口 雄 史

リハビリテーション科学：美津島 隆，中 村 智 之

解剖学：徳 田 信 子

物理学：河 村 亨

病理診断学：石 田 和 之（病理学各論Ⅲ，病理学各論実習 科目責任者）

III. 一般学習目標

運動器疾患・外傷を理解すべく運動器の機能解剖・生理・生化学・生体力学の基礎知識を学習する。

運動器疾患・外傷の診断に必要な基本的な診察法，画像所見を学習する。

運動器疾患の病因・病態，病名に関する知識および治療法を学習する。

運動器外傷の救急処置，プライマリーケア，その後の治療法の基本的知識を学習する。

運動器の治療にはリハビリテーションがいかに重要かを学習する。

治療にあたる医師としての基本的理念についても改めて学んでほしい。

IV. 学修の到達目標

5年生でCCを行う際に，受け持ち患者や他の入院患者を診察し，病名診断をつけ，その疾患の病因・病態を理解し，さらにはどのような治療法が適当であるか自分なりに判断できる知識を習得すること。

またその際に，指導教官との会話や診療録によく使われる欧語での医学用語を出来るだけ覚えること。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）

2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他）

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブ ラーニング | |
|-----|----|----|----|----|-----------|----------------------------|-------------------------------|---|
| 各 3 | 1 | 11 | 1 | 火 | 3 | 運動器疾患の概要と整形外科のプロフェッショナルリズム | 整 形 外 科 学 種 市 洋 | 5 |
| | 2 | | 11 | 金 | 5 | 四肢の機能解剖 | 整 形 外 科 学 富 沢 一 生 | 5 |
| | 3 | | 15 | 火 | 1 | 腰椎疾患 | 整 形 外 科 学 森 平 泰 | 5 |
| | 4 | | 15 | 火 | 2 | 骨の組織と疾患の病理（非腫瘍） | 病 理 診 断 学 中 里 宣 正 | 1 |
| | 5 | | 17 | 木 | 4 | 下肢の骨折と小児期の疾患 | 整 形 外 科 学 富 沢 一 生 | 5 |
| | 6 | | 17 | 木 | 5 | 治療 理学療法と作業療法 | リハビリテーション科 中 村 智 之 | 1 |
| | 7 | | 22 | 火 | 1 | 整形外科のための骨筋学 | 解 剖 学 徳 田 信 子 | 5 |
| 各 3 | 8 | | 22 | 火 | 2 | 脊柱・骨盤の機能解剖 | 整 形 外 科 学 上 田 明 希 | 5 |
| | 9 | | 22 | 火 | 3 | 関節疾患の病理（非腫瘍） | 病 理 診 断 学 中 里 宣 正 | 1 |
| 各 3 | 10 | | 25 | 金 | 2 | 骨軟部腫瘍の病理 | 病 理 診 断 学 金 子 有 子 | 1 |
| 実 実 | 11 | | 25 | 金 | 3 | 病理実習（非腫瘍性疾患） | 病 理 診 断 学 金 子 有 子 | 1 |
| | 12 | | 25 | 金 | 4 | 病理実習（腫瘍性疾患） | 病 理 診 断 学 金 子 有 子 | 1 |
| 実 実 | 13 | 12 | 9 | 金 | 5 | バイオメカニクス | 物 理 学 河 村 亨 | 5 |
| | 14 | | 12 | 月 | 1 | 上肢の骨折と小児期の疾患 | 日 光 ・ 整 形 外 科 長 田 伝 重 | 5 |
| | 15 | | 12 | 月 | 2 | 関節炎，腱鞘炎，絞扼性末梢神経障害の症候と治療 | 日 光 ・ 整 形 外 科 長 田 伝 重 | 5 |
| | 16 | | 15 | 木 | 5 | 切断のリハビリテーション | リハビリテーション科 中 村 智 之 | 1 |
| | 17 | | 16 | 金 | 1 | 福祉用具と介護保険 | リハビリテーション科 美 津 島 隆 | 1 |
| | 18 | | 16 | 金 | 2 | 歩行の運動学と評価，転倒の予防 | リハビリテーション科 美 津 島 隆 | 1 |
| | 19 | 1 | 6 | 金 | 5 | 脊椎脊髄損傷の診断と治療 | 整 形 外 科 学 森 平 泰 | 5 |
| | 20 | | 10 | 火 | 1 | 骨の成長，形成，吸収の機序と疾患 | 整 形 外 科 学 稲 見 聡 | 5 |
| | 21 | | 10 | 火 | 2 | 高齢者の運動器疾患（ロコモ・サルコペニア含む） | 整 形 外 科 学 稲 見 聡 | 5 |
| | 22 | | 13 | 金 | 5 | 脊髄損傷のリハビリテーション | リハビリテーション科 美 津 島 隆 | 1 |
| | 23 | | 16 | 月 | 6 | 関節の脱臼，靭帯損傷（スポーツ障害含む） | 埼 玉 ・ 整 形 外 科 榑 木 祐 樹 | 5 |
| | 24 | | 18 | 水 | 3 | 骨軟部腫瘍 | 静 岡 がん センター ・ 整 形 外 科 片 桐 浩 久 | 5 |
| | 25 | | 20 | 金 | 3 | 変形性関節症の症候，診断と治療 | 埼 玉 ・ 整 形 外 科 神 野 哲 也 | 5 |
| | 26 | | 20 | 金 | 4 | 骨折の基本（分類，症候，診断，治療） | 整 形 外 科 学 山 口 雄 史 | 5 |
| | 27 | | 24 | 火 | 4 | 頸椎疾患，脊椎感染症 | 整 形 外 科 学 上 田 明 希 | 5 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|----|----|----|-------------------|---------------|----------------|
| 28 | 1 | 24 | 火 | 5 | 筋骨格系の徒手検査と画像診断の基本 | 整形外科学 竹内大作 | 5 |

注) 上表のうち、左端の「各3」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論Ⅲ」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「運動器」の授業とともに表記されている。

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末テストの60点以上を合格とする。

講義回数の3分の1以上欠席すると期末試験の受験を停止する。（対象回数は『病理学各論Ⅲ』・『病理学各論実習』を除く）

以下のとおりの成績を持って評価とする。（ ）内は評価の割合。

定期試験（70%）、プレゼンテーション（30%）

VII. 教科書・参考図書・A V資料

整形外科学

教科書・参考書： 新版 整形外科学・外傷学（文光堂）
整形外科 Text（南山堂）
標準整形外科学（医学書院）

A V資料、その他： 講義担当者によって異なる。

リハビリテーション科学

神経疾患のリハビリテーション 第2版（南山堂）
プリントをわたす

放射線医学

教科書・参考書： 標準放射線科学（医学書院）

病理学

教科書・参考書： 非腫瘍性骨・関節疾患の病理, 2003（文光堂）
Orthopaedic Pathology. 3rd edition, 1997
(Mosby-Wolfe)

VIII. 質問への対応方法

原則として講義時に質問を受け付ける。

後で質問がある場合、事前に秘書を通じアポイントを取ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | ◎ |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | ◎ |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | ○ |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ○ |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | ○ |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | ○ |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |

二学年

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容の質問等に関して都度解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載があります。

アクティブ・ラーニングを「5. プレゼンテーション」とする講義では，冒頭部分で学生が与えられたテーマに対しパワーポイントを使った10分間（時間厳守）のプレゼンテーションを行うこと。

プレゼンテーションテーマについてはシラバス別冊に記載する。

3学年を6～7名のグループに分け，講義1コマに対し割り当てられた1グループがプレゼンテーションを行う。資料収集，スライド作成，発表などグループ内で役割分担し，分担内容を書面にて提出すること。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載があります。